



カンティフェア 開催日:10月18日・19日
快晴に恵まれ、過去最高の7万人の人で賑わいました。国際児童絵画展表彰式の様子です。



ケンタッキー州マディソン郡訪問団を歓迎 開催日:10月17日
今年もポールラッシュの会が中心となり、日本伝統芸能の琴や、事務局長の鑑姿、よさこい、ホークダンス等地域の皆様での装いや演舞で訪問団をお迎えして歓迎レセプションを清里景新館国際交流ホールで催しました。



やまなし大使とともにこびっと視察
8月20日にやまなし大使に任命された台湾の輸入会社の林定三(デービッド・リン)会長と副知事とともに委嘱式後に今年台湾に1トンの輸出が決定している北杜市の農業法人「こびっと」の稲作を視察しました。



秋季美し森 環境整備
開催日:10月25日/昭和21年に始まった美し森でのつつじ祭りも68回を数え観光資源として重要な拠点です。保護育成のための草刈りや伐採を行友会、ボランティア推進機構、高根・大泉の観光業者の皆様と年2回のべ300人でっています。



第6回グランfondハケ岳開催日:10月4日・5日
台風18号関東直撃に関わらず2100名を超える皆様が前日受付され、グランfondハケ岳への期待と人気の高さを改めて認識しました。また、悪天候に関わらず300名を超える地域ボランティアの皆様のご協力を頂きました。心より御礼申し上げます。



第6回菜の花プロジェクト 開催日:10月10日 会場:清里KEEP農場と高根町小池地区
今年も2町歩の畑に菜の花の種を蒔き、大空に向けて風船を飛ばしました。参加者:高根西小学校全児童180名/小池地区長寿会30名/みどり保育園年長20名/聖ヨハネ保育園児/中北農務事務所/観光協会高根支部の皆さん



第2回ハケ岳南麓横断トレイルラン
開催日:10月13日 大型台風19号関東直撃の事前報道によりエントリー者数180名が88名の前日受付となりましたが前夜祭では高根ふるさと太鼓と甲斐の国「小粋」のよさこいなどを披露し参加者のみなさん楽しんでいただきました。



馬と棒道ウォーク 開催日:9月21日
今年から始めた北杜市魅力発見ウォーキングの3部作の第一弾!小淵沢の棒道をめぐるイベントに約500名の参加をいただきました。



増富もみじ祭りウォーク 開催日:11月2日
北杜市魅力発見ウォーキングの第2弾!国内有数の紅葉の名所「通仙峡」(本谷川)で普段通れない道を県内外から多数の参加者楽しんでいただきました。



旧甲州街道ウォーク 開催日:11月9日
北杜市魅力発見ウォーキングの第3弾!古き良き面影を残す甲州古道と台ヶ原を楽しむイベントです。参加賞の武川町幻の48米おにぎりとお南アルプスの天然水は好評でした。



農業視察
明野町九州屋村沢社長とトマト農場(ハウス)白州(株)ドームファーム金井社長とレタス畑、耕作放棄地に企業が参入してはどう畑に!



議場訪問
議事堂見学に訪れた北杜市の未来を担う子供達と共に

浅川カ三

県政だより【第46号】

平成26年9月議会 代表質問



生涯にわたって健やかに安心して暮らせる山梨へ

清秋の候、北杜市の皆様には益々御健勝のこととお慶び申し上げます。
本年2月の豪雪を始め広島の土砂災害や御嶽山の噴火など、大きな被害をもたらした自然災害が相次いでいます。何の前触れもなく突然発生する自然の脅威に対して日頃からどのように備えるべきなのか、行政だけでなく、私たち一人ひとりが考えなければならない時が来ています。

さて、過日、横内知事は、次期知事選への不出馬を表明されました。知事は、就任当初に「権腐10年」と発言されており、初志を貫徹した潔い決断でした。この2期8年を振り返りますと、知事は、土地開発公社の経営改革、中小企業高度化資金の処理など前県政から引き継いだ困難な課題に果敢に立ち向かい、自ら泥をかぶることを厭わず、ことごとく解決の方向性を定めました。さらに、富士山の世界文化遺産登録、リニア中央新幹線の整備推進など知事が取り組んだ「山梨発展の芽」は着実に育っています。誠心誠意をもって職務に当たり、輝かしい成果を残された横内知事に、深甚なる敬意を表する次第であります。

ところで、私は、9月定例県議会で全議員の先陣を切って代表質問に登壇し、県政各般について県の施策を質しました。「当日は、180名を超える地域の皆様で傍聴席が埋めつくされました。皆様には、私と県当局との論戦に立ち会っていただき、私の活動の一端をご理解賜りましたことに、心から感謝申し上げます。」今回の質問では、私のライフワークである農業振興や肝炎対策、観光振興に加え、人口減少対策をその中心に位置づけて、人口減少対策戦略本部を立ち上げて全庁が一丸になって取り組みを始めようとする県の進むべき道について議論を交わしました。

私は、引き続き地域の実情をつぶさに見て、地域の皆様の声を真摯に聴いて、県政に届けてまいりますので、今後とも温かい御支援を賜りますようお願い申し上げます。

浅川カ三プロフィール

昭和22年7月8日/浅川カ三 誕生
昭和41年/須玉商業卒業
昭和45年/拓殖大学卒業
昭和49年/昭和薬科大学卒業
昭和59年/ハケ岳青年会議所創立メンバー 副理事長

平成9年/清里小学校PTA会長
平成10年/高根町議会議員 初当選
平成13年/高根町議会副議長
平成15年/県議会議員 初当選
平成16年/清里観光振興会長
平成17年/決算特別委員長
平成18年/出資法人調査特別委員長

山梨県雪合戦連盟会長
北杜市友会 相談役
平成19年/農政商工観光委員長
企業会計決算特別委員長
平成20年/総務委員長
平成21年/第105代県議会副議長

ホームページアドレス <http://www.asakawa-rikizo.net>

北杜ライオンズクラブ 会長
オール山梨青年会議所シニア会長
公益社団法人
やまなし観光推進機構 副会長
平成22年/県共同募金会 会長
県緑化推進機構 会長
平成23年/第120代県議会議員
県自転車競技連盟 副会長
産業技術短期大学校 後援会長
平成25年/NPO法人 ポールラッシュの会 会長
一般社団法人 北杜市観光協会 会長
平成26年/予算特別委員長

- 医師修学資金貸与条例等の一部改正**
医師修学資金の返還免除要件を見直して、医師が不足する地域の公立病院や、産科など不足する診療科において必要な医師の確保を図る。
- 防災体制強化事業費 950万9千円**
被害情報等を共有するためのシステムの構築など、豪雪被害者の教訓を踏まえ、防災体制を強化する。
- 本会議代表質問での質疑**
私の代表質問のうち主なものは次のとおりです。

1 人口減少対策について

(1) **人口減少社会への対応について**
(質) 山梨県の人口減少が止まらず、近年では年間で5,000人規模の人口減少が続いている。今後、体制強化も視野に入れながら、人口減少対策を進めていく必要があると思うが所見を伺う。

(答) 人口減少対策戦略本部で、少子化対策や移住定住対策をさらに強化するとともに、本県としての将来ビジョンや総合戦略を策定し、特色を生かした対策を実施していく。また、体制強化も視野に入れる必要があることから、組織、人員体制の充実について検討していく。

(2) **県が策定する新たな子ども・子育て支援計画について**
(質) 来年度から始まる「子ども・子育て支援新制度」に向け、県が策定を進めている新たな計画の基本理念は。また、その理念の実現のため、何に重点を置いて取り組むのか伺う。

(答) 子供の健やかな成長を保障する視点に立つて、子供の最善の利益が実現され、笑顔の子育てを笑顔で応援する社会の構築を基本理念としていく。また、保護者の就労状況にかかわらず、質の高い幼児期の教育・保育を提供することなど、地域の子育て支援の充実、さらには結婚を応援するための支援などを重点的に展開していく。

(3) **産後ケアセンターについて**
(質) 産後ケアセンターの平成28年早々の開所に向け、県が考える基本的な整備方針について伺う。

(答) センターの機能については、居室を6床以上、このうち家族で滞在できる居室を2床以上備えるとともに、同じ悩みを抱える母親同士が談話でき、出産を控えた母親などとも交流できるスペース、さらに、地域で母子の支援を担っているNPOなどとの交流スペースといった機能を確保していく。

(質) どのような点に留意しながら事業者選定に臨むのか伺う。

(答) 助産師、保育士など様々な専門職の人的資源の確保を前提にするとともに、愛育会、NPOなど関係団体と連携し、地域の子育て支援に積極的に貢献できることなどの点に留意していく。

(4) **移住・定住対策の推進について**
(質) 昨年の「田舎暮らし希望地域ランキング」では本県が全国第2位に急上昇している。こうした動きを実際に移住へと結びつけるためには、やまなし暮らし支援センターの活用をより一層促進する必要があると思うが、本年度のこれまでの実績について伺う。

(答) 本年4月から5カ月間の相談件数が871件、移住決定者は74名と既に昨年度実績の52名を上回り、移住先も、6市村から15市町村へと広がりを見せている。

(質) 新たな移住希望者を掘り起こすには、積極的なPR等が重要であり、さらに、移住希望者から相談の多い空き家の利用などの住宅情報について、常に充実した情報を用意しておくことが必要と考えるがこれらの課題に今後どのように取り組むのか所見を伺う。

(答) 東京・横浜・名古屋・大阪で出張相談会を開催したり、専門情報誌へ記事を掲載するなど積極的なPRを行っていく。さらに、新築や賃貸など幅広く住宅情報を収集すると同時に、市町村が運営する空き家バンクへの支援を行っていく。



2 肝炎・肝がん対策について

(質) C型肝炎患者500名を対象に行われた新薬の治験において98%を上回る治癒率を示したとの話を聞いた。この新薬によりC型肝炎患者のほとんどが完治できる時代が来ることを目前に控え、感染の指摘を受けても受診や治療を行っていない方々を受診や治療にどのようにつなげていくのか伺う。
また、肝硬変や肝がんなどの重症化に苦しむ患者への対応も必要になると思うが取り組みについて伺う。

(答) 本年9月1日から新たな対策として、ウイルス性肝炎患者等重症化予防推進事業を開始した。
この事業は、第1に、保健所等の肝炎ウイルス検査で新たに陽性となった方を対象に、集中的に医療機関への受診勧奨を行うとともにその後の状況把握等、徹底したフォローアップを行うもの。併せて、初回受診における精密検査費用を県が助成することで、早期の治療につなげていく。

第2として、ウイルス感染を原因とする肝がん等の患者を対象に定期検査を受診するよう継続的に勧奨を行い、重症化を防止することとしているが、このうち、住民税非課税世帯の患者には、定期検査費用を県が助成することで肝がん等に苦しむ方の負担軽減を図る。

3 野生鳥獣の捕獲対策について

(質) 平成24年12月、知事に対し、県議会としては初めての政策提となる「鳥獣被害対策に関する政策提言書」を提出したが、この政策提言を受けた野生鳥獣の捕獲対策への取り組み及びその成果について伺う。

(答) 平成24年度には、メスジカ捕獲強化期間を設定するなど広域的かつ効果的な管理捕獲の実施体制の充実に取り組んできた。また、平成25年度には、わな罠の促進と併せて、新規の狩猟免許や銃砲所持許可を取得する際の経費への助成の実施などにより、狩猟者の確保・育成に努めてきた。このような取り組みにより平成25年度には、ニホンジカについては、初めて捕獲頭数が1万頭を超えた。

(質) 今後、管理捕獲を年間どのくらい進めていくのか、捕獲対策にどのように取り組んでいく考えなのか伺う。

(答) 明年度以降、これまでの捕獲状況や捕獲効果を踏まえて、実効性のある管理捕獲の目標設定を検討していく。また、くくりわなの積極的な活用を促すと同時に、今般の鳥獣保護法の改正で創設される鳥獣捕獲事業者としての認定を希望する民間の事業者の動向も見ながら、新たな担い手の確保・育成対策の充実を図っていく。

浅川力三 代表質問

平成26年9月24日

4 エネルギー対策について

(質) 企業局では、北杜市において、一旦凍結されていた水力発電所の建設計画を再開する方向で検討しているとの報道があった。そこで現在、企業局で経営する水力発電の状況と北杜市内に計画している発電所の内容、検討状況を伺う。

(答) 21カ所の水力発電所において、約12万キロワットの出力により県内一般家庭の約40%、13万世帯分に相当する電力を供給している。また、計画している水力発電所では、5,000キロワット規模の発電を行い、一般家庭6,000世帯分に相当する電力供給を見込んでいる。本計画については、地元の北杜市と長野県富士見町に対して、計画の再開を打診した。

5 観光振興について

(質) 今秋以降の観光客増加に向け、どのように国内外の観光客誘客を図り、県内各地域への誘客を進めていくのか、具体的な取り組みについて伺う。

(答) 今月から11月末までの3カ月間、JR東日本と連携して、秋の観光キャンペーンを実施している。また、北杜市のグランフォンド八ヶ岳や増富もみじウォークなどのスポーツイベントを、東京・名古屋・大阪で実施される観光商談会において広くPRするとともに、県外の旅行会社等を県内に招き、現地説明会などを開催し、新たな宿泊ツアーの造成に努めていく。さらに、インドネシア等で行われる旅行博に出展するとともに、海外の旅行会社等を招聘して、積極的にセールス活動を展開していく。

6 本県農業の振興について

(質) 新規就農者の確保に向け、どのように取り組んでいくのか伺う。

(答) アグリマスターのもとで研修を行う就農定着支援制度や農業協力隊など県の独自施策と、国の青年就農給付金をあわせて活用し、経営の早期安定を支援している。特に、本年度から農業協力隊を有機農業に特化して実施していく。

(質) 本県では、毎年農業に企業が参入し、耕作放棄地が解消されるなど着実に成果を上げている。今後、この成果を波及させ、地域の活性化に結びつけるためには、参入時の支援にとどまらず、参入した企業を継続して支援していくことが必要であるが所見を伺う。

(答) 今後も、栽培担当者の資質の向上や、六次産業化法に基づく加工販売施設の助成など、農業経営の安定と発展に向けた取り組みを支援していく。



(質) 経営規模の拡大による足腰の強い果樹農業を確立していかなければならないと思うが、果樹農家の規模拡大をどのように進めていくのか伺う。

(答) 永年性作物の特性に配慮しながら、市町村が策定する人・農地プランに樹園地の集積計画を盛り込み、集積協力金を活用して、その実行を促進すると同時に、圃場やかんがい施設などの基盤整備により作業の省力化を可能にするなどしている。

(質) 農業・農村の活性化を図って行くためには、さらなる加工品開発の促進とブランド化を図っていくことが重要と考えるが所見を伺う。

(答) 美味しい甲斐開発プロジェクトにおいて、引き続き小泉武夫先の指導のもとで、北杜市のラズベリーを使ったりキュールなど、地域の特産ある農産物を活用した商品の開発を支援していく。また、美味しい甲斐販売戦略委員会において、開発商品のブランド力向上と販路開拓のあり方を検討していく。

7 中部横断自動車道の整備促進について

(質) 中部横断自動車道の長坂・八千穂間の整備について今後の取り組みを伺う。

(答) 自然や景観への十分な配慮など、地域からのさまざまな意見について丁寧に対応していくとともに、国に対し、長野県内も含めた全区間一体での整備計画への早期格上げを働きかけていく。

(質) 地域の方々から、より多くのインターチェンジや直売所、駐車場を設置して欲しいとの強い要望をいただいている。佐久市付近では、短い間隔でインターチェンジが整備されており、山梨県側においても地域振興の観点から、より多くのインターチェンジを整備すべきであるが所見を伺う。

(答) 北杜市の中部横断自動車道活用検討委員会において、地域の意見を集約することとなっているので、その結果も踏まえながら、国に対して具体的な要請を行っていく。

ホームページに掲載しています。

●農作物等の鳥獣被害についてお伺いします。

私が「鳥獣被害対策に関する政策提言」を知事に投げかけ、被害対策の強力な推進を求めています。地元北杜市エリアの被害実態について緊急アンケート調査を実施しておりますので、ご協力をお願いいたします。
<http://asakawa-rikizo.net/>

●平成25年 C型肝炎対策について

2月の県議会にて「肝炎・肝がん対策についての5項目」を柱とする意見書を決議し、国に提出いたしました。
6月の県議会においてその決議した5項目について、県は今後どのようにするのか代表質問を行いました。<http://asakawa-rikizo.net/pg152.html>

あとがき

9月議会の論戦の中心は、人口減少対策でした。これまでも妊娠・出産、子育てと様々な場面で少子化対策を進めてきましたが、人口減少傾向は止まりません。大学進学や就職で県外へ出て行き、そのまま戻ってこない若者の多いことが一つの要因ではないでしょうか。県内に魅力ある進学先、就職先を用意することが肝要と考えます。皆様の率直な御意見をお聴かせください。

